

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント

[上映と講演]
ピクチャレスク・ジャパン
——世界が見た明治の日本——

お世話になっております。国立映画アーカイブでは、本年のユネスコ「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)記念特別イベントとして、英国映画協会(BFI)所蔵コレクションから、明治期に外国人が日本を撮影して海外に伝えた映画をデジタル修復版で紹介いたします。明治の日本の風景や文化が映画で世界にどのように表現されてきたのか、現在では失われた風景や文化、人々の営みを、映画上映と専門家の解説を通して探ります。映画遺産とともに多様な文化や歴史を改めて顧みる本イベントに、周知のご協力を賜りますと幸いです。

			
保津川の急流下り	ピクチャレスク・ジャパン	日本の祭 横浜開港五十年祭	日本の稲刈り
			
京都の祭	鵜飼	日本のアイヌ	日本の軽業師

本イベントのみどころ

- ・すべて英国映画協会(BFI)が所蔵作品からデジタル修復を終えたばかりの映像で、英国外では初上映となります。
- ・各分野にとって現存する最古の映像と考えられる貴重な映像が多数ふくまれています。例：『日本の祭 横浜開港五十年祭』(1909)、『日本の稲刈り』(1910)、『京都の祭』(1911)、『鵜飼』(1911)等。
- ・今では失われた文化、景観がスクリーンに蘇ります。例：『日本の葬列』(1904)、『日本の祭列』(1904)、『ピクチャレスク・ジャパン』(1907)、『京都の祭』(1911)、『日本のアイヌ』(1913)、『日本の軽業師』(1914)等。
- ・上映後、各分野の専門家による講演を通して、映像に記録された事象や文化についての理解を深めることができます。
- ・明治の日本が映画を通してどのように海外に紹介・普及されたか、幅広く学ぶことができます。
- ・デジタル復元によって美しくよみがえった映像および当時の着色映画の魅力を、ピアノ伴奏とともに味わうことができます。

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント

ピクチャレスク・ジャパン——世界が見た明治の日本——

2020年10月24日(土) - 25日(日) 12:00 pm - 3:45 pm * 開映20分前開場。開映後の入場はできません。

* 上映と講演あわせて130分程(予定)のイベントです。講演は、10月24日12:00 pmの回のみ講師が登場し、その後の回は講演を撮影したビデオを上映します。

会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU

料金：一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円 ※前売券のみ

定員：105名(入替制・全席指定席) ※24日12:00 pmの回は100名

主催：国立映画アーカイブ、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

特別協力：英国映画協会(British Film Institute)

HP：<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/unesco2020/>



令和2年度日本博主催・共催型プロジェクト

【本件に関する取材・お問い合わせ】国立映画アーカイブ「ピクチャレスク・ジャパン」担当(富田・吉田)

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：pr@nfaj.go.jp

【プログラム】*映画上映（65分予定）の後、続けて講演（60分予定）を行います。講演だけの参加はできません。

上映

『日本の学童たち』Japanese School Children 1904 (英、ハップワース・マニファクチャリング社) 2分 尋常小学校での男児の体操と、女児の運動を収めた映像。女児の運動を回廊から先生や男児が眺めている様子も捉えられている。
『日本の葬列』A Japanese Funeral 1904 (英、ウォーリック・トレーディング社) 1分 街を行く神式の葬列を1ショットで捉えた映像。被写体、場所は不明（調査中）。
『日本の祭列』Japanese Procession of State 1904 (英、ハップワース・マニファクチャリング社) 1分 「座摩神社」や「天保講」の法被や「永代濱」の提灯などから、大阪の坐摩神社の祭りで御旅所への渡御（とぎよ）の風景と推定される。
『日本の舞踊』Japanese Dancers 1905 (英、不明) 2分 チャールズ・アーバン・トレーディング社、ウォーリック・トレーディング社、ゴーモン社、パテ・フレール社の映像から作られた「日露戦争プログラム」（1905、英）に含まれていた映像で、翁、鬼、おかめ、狐などの仮面をつけての舞踊を収めた作品。
『保津川の急流下り』Shooting the Rapids on the River Ozu in Japan 1907 (仏、パテ・フレール社) 7分 京都・保津川の川下りを、出発地から渡月橋まで俯瞰映像も交えて収めた映像。NFAJ所蔵の「保津川の急流」(1906)とは別作品。
『ピクチャレスク・ジャパン』Picturesque Japan 1907 (仏、パテ・フレール社) 9分 大阪の道頓堀、京都の四条大橋、奈良公園、盆栽市、横浜伊勢佐木町での日露戦祝勝行列、横浜日ノ出町の葬列、傘張りや羅宇屋など、当時の日本の景観や風物、職人を捉えている。トーマス・アーマット・コレクションと同じ映像も多い。
『日本の祭 横浜開港五十年祭』Japanese Festival 1909 (仏、パテ・フレール社) 6分 1909（明治42）年に開催された横浜開港五十年祭の市中の様子を収めたきわめて貴重な映像。山車の巡行、輸入商青年会による大名行列や魚かし連の囃し屋台、芸妓連の行列などが、関内地区の景観や賑わいとともに捉えられている。
『日本の稲刈り』Rice Harvest in Japan 1910 (仏、パテ・フレール社) 撮影：ルシヨン 8分 稲刈り、脱穀、粃摺り、選別といった収穫・調製作業が克明に収められているだけでなく、湿田や作業場、地主や小作人、近所の子供たちも映っており、農作業史料のみならず農民らの生活史料としても貴重な作品。
『京都の祭』The Rice Festival in Kyoto 1911 (仏、パテ・フレール社) 8分 京都・島原の太夫道中、七条大橋を渡る伏見稲荷の祭礼、滋賀・長浜曳山祭をおさめた映像。パテ・フレール社の作品資料によると、太夫道中と曳山祭の映像は、別作品の映像の可能性もある。
『鵜飼』Fishing with Cormorants. Isle of Yeso. Japan 1911 (英、チャールズ・アーバン・トレーディング社) 10分 タイトルには蝦夷とあるが、長良川の鵜飼の様子が写されている。映像からは、当時の鵜舟や篝火、装束などが今ほとんど変わらないことがわかる。現存する最古の鵜飼映像と思われる。
『日本人の中で』Among the Japanese 1911 (米、シーリーグ・ポリスコープ社) 2分 木立の中にいる日本髪の若い女性と、人形を作る女性の映像。BFIの調査によると、パテ・フレール社作品の一部分の可能性もあり。
『日本のアイヌ』The Ainu of Japan 1913 (米、シーリーグ・ポリスコープ社) 3分 アイヌ民族の「舞踊や酒の儀式」、「入れ墨」として紹介されたものだが、衣装やアイヌ文様・舞踊、背景などから北海道の平取コタンで撮影されたものと思われる。
『日本の軽業師』Japanese Acrobats 1914 (英、不明) 6分 一座の名前は不明だが、エジソンの1904年の同名作品とは別人と思われる。成人男性1名、青年2名、少年2名の計5人が、見事な足芸の樽回しやバランス、曲芸を披露。

講演 *10月24日 12:00 pm の回のみ講師が登壇し、その後の回は講演を撮録したビデオを上映します。

初期映画における日本の映像について（仮題）

講演者：小松弘（早稲田大学文学学術院教授） 無声映画の代表的な研究者として世界的に知られ、主な著作に『起原の映画』（青土社、1991）、『ベルイマン』（清水書院、2000）、共訳書にサドゥール『世界映画全史』（国書刊行会、全12巻）などがある。

「日本の祭 横浜開港五十年祭」について（仮題）

講演者：平野正裕（元横浜開港資料館・横浜市史資料室員） 1992年より横浜開港資料館調査研究員として数々の展示を担当し、2005年横浜都市発展記念館展示「シネマ・シティー 横浜と映画」を企画。2015年市史資料室に異動し、2020年退職。

「日本のアイヌ」の映像について（仮題）

講演者：森岡健治（平取町立二風谷アイヌ文化博物館長） アイヌ文化・考古学が専門。

「日本の軽業師」の映像について（仮題）

講演者：大島幹雄（サーカス学会会長） 40年間サーカスプロモーターとして勤務。主著に『海を渡ったサーカス芸人 コスモポリタン沢田豊の生涯』（平凡社、1993）、『明治のサーカス芸人はなぜロシアに消えたのか』（祥伝社、2013）、『<サーカス学>誕生』（せりか書房、2015）などがある。